

安住寺だより

禅の心

第140号

発行 安住寺（年4回発行）

臨済宗南禅寺派

大分県杵築市大字南杵築379

〒873-0002 Tel 0978-62-2680

http://www.anjuji.net

編集 矢野明玄
印刷 安住寺

偏^{かたよ}らない、拘^{こたわ}らない、とらわれない生き方を

我が国は、緯度の関係で彼岸の中
 日頃、昼夜の時間が同じになる。そ
 こで仏教の「中道」という考え方に
 沿わせています。修行の徳目は「六
 波羅密」ですが、平素もさることな
 がら、特に彼岸中に実践しましょう。
 というのが「お彼岸」の教えです。
 先祖の供養や墓参りに終始せず、六
 つの徳目を実践するのが「彼岸」
 （おさとり）への道なのです。

さて、ものごとの把握や実践にお
 いては、単に肯定的な立場と否定的
 な立場が存在します。中道の「中」
 は、この二つの極端な立場を足して
 二つに割った中間の立場を意味する
 のではなく、両極端を離れた自由な
 立場を意味しています。偏らない、
 拘らない、とらわれない存在、生き
 方を求めようとするのです。

お釈迦さまは、快樂に身をゆだね
 る快樂主義と、身体を徹底して苦し
 める苦行主義とを捨てて、中の「禅
 定」によってお悟りの境地に到達す
 ることができました。苦楽中道とよ
 ばれるものです。離れるべき二辺は
 常と断、有と無、我と無我などにも
 広げられ、それと共に中道の意味も
 一般化したようです。

彼岸とは、文字通り「彼の岸」で
 す。煩惱の渦巻く此の岸より、さと



9月14日撮影 鴨川地区の田圃

りの彼の岸に渡るといふことです。
 仏教伝来以来、事有る毎に説かれて
 きたと思うのですが、毎年二度の彼
 岸を迎え、実践してきたはずなのに
 今の世相はどうでしょうか。政治
 経済、教育、人々の暮らし、どれを
 見ても混沌としています。我々の僅
 かな体験の中でも、今ほど乱れた彼
 岸に遠い世相は無いのではないでし
 ょうか。頼りになる国も、その指導
 者も見てのとおり、協力して守ろう
 支えよう、という気概も風潮も見受
 けられません。言いたい放題、した
 い放題が世の中にまかり通っていま

す。一方で、家庭の有り様は如何で
 しょうか。家より個人の方が大切に
 「家」の為に個々の主張は犠牲にす
 るなどという風潮は、遠い過去のも
 のとなってしまうました。その為、
 家の存続が危ぶまれるようにもなり
 ました。

日本の人口は、このままいくと二
 ○五五年には、九〇〇〇万人を割る
 と推計されています。今より三五〇
 〇万人ほど減少することになり、約
 一六〇〇万戸の「家」が無くなる計
 算です。経済的にも極めて深刻な状
 況になります。

実りの秋を迎えた稲穂が、何だか
 悩んで見えるのは、杞憂僧の思い込
 みのせいだろうか。

へ徳

行事予定

9月21日	敬老会（合掌会主催）
9月24日	写経写仏の会
10月9日	独秀流ご詠歌
10月17日	ご詠歌・観音講
10月24日	写経写仏の会
11月7日	独秀流ご詠歌
11月16日	ご詠歌・観音講
11月21日	写経写仏の会
11月27日	合掌会奉仕作業
12月7日	独秀流詠歌（納会）
12月17日	観音講（十時より）
12月21日	写経写仏の会

都合により、変更することがあります。

教化・法話研修会

於・別府湾ロイヤルホテル

八月二十〇二十二日、南禅寺管長を迎え、大分近県の若手住職が集まり、教化と法話の研修会がありました。

会では、管長猊下の「臨濟録」の提唱から始まり、南禅寺蓮沼教学部長の座学から法話実習と、内容の濃い研修会となりました。



法話は『般若心経』の「是故空中」をテーマに、各自法話を発表しました。

日頃、法話をするに慣れていない私は、どのようにお話しすればいいか苦戦をしました。発表後に教学部長からご指導頂いたことや、お互いに評価しあったことを参考に要約しました。

今回の研修会は管長の発案で、若い住職にもっと勉強してもらいたいとの願い

によるものですが、勉強不足を痛感したとともに、参加の和尚方の法話を拝聴することもでき、刺激になりました。

【法話実習】

「大いなる網の目を

生きるわたくし」

おはようございます。ようやくお盆も終わり、日常がもどりつつあるころではないでしょうか。

お盆を前にした七月中旬、熊本県・大分県を中心とした、北部九州は豪雨に見舞われました。大きな被害を残し、三十人を超える死者行方不明者が出ました。

犠牲になられた方々、被災され厳しい暑さの中、困難な生活を余儀なくされている方々には、心からご冥福とお見舞いを申し上げます。

その被災地の光景を見ますと、昨年三月十一日の東日本大震災で感じた、自然の驚異を改めて感じたところでもあります。しかし、豪雨にしろ津波にしろ、過ぎ去った後の静かな海、晴れ渡った空を見ますと、あの津波は、豪雨は無かったかのように海は穏やかに波うち、清々しい空をたたえています。

津波、豪雨は、地殻変動による地震、地球温暖化による気温上昇など、自然環境の様々な要素が複雑に縁起した自然現象であります。

しかし、逆に考えて見ますと、平穩無事に何事もなく晴れ渡った空も、自然気象のバランスがとれ、安定して縁起しているものと捉えることが出来ます。全ては、ただただ縁によって起こって

いるのであります。

般若心経の中に「不生不滅、不垢不淨、不増不減」とありますが、この自然災害も地球規模で見れば、新たに生まれてきたものでもなく、滅していったものでもない。また、増えたものでもなく、減ったものでもない。自然環境の中で様々な現象、条件が互いに網の目のように結びつき、縁起した結果であることがお解かりいただけるのではないのでしょうか。

私事ですが、生まれたばかりの双子を含め四人の子供の父親であります。今時のイクメンとはいきませんが、子育てに協力し、子供の成長に喜びを感じているところでもあります。

『仏説父母恩重經』には、悲母の子を思ふこと、世間に比(たぐい)あることなく、その恩、末形(みぎよう)に及べり。はじめ胎(たい)に受けしより、十月(とつき)を経るの間、行・住・坐・臥(ぎよう・じゅう・ざ・が)、ともに諸々の苦悩を受く。苦悩休(や)むときなきがゆえに、常に好める飲食(おんじき)・衣服を得るも、愛欲の念を生ぜず、ただ一心に安く産まんことを思ふ。

子供は、父母の縁、先祖の縁を受け継ぎ、脈々と流れる直接的因果・間接的因果の縁起によって母体に命を宿し、十月の間大切に育ち生まれました。

生まれたばかりの赤ちゃんを見てみると、この子はどこまで何を自覚して生きているのだろうか疑問に感ずることもあります。

調べてみますと、生まれたばかりの赤ちゃんの五官・五感の実は、大人並に発

達しているそうです。赤ちゃんの脳は、妊娠四か月ごろには大人とほぼ同じくらいになるそうです。しかし、機能は未熟で、情報をうまく処理できていません。ですが、視覚を除けば、聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚は、大人と同じように機能しているそうです。

「オギャー オギャー」と泣いている姿、手足を動かしながら、ニコニコ笑うその笑顔、どの姿を見ても、純真無垢に与えられた命を本能的に無自性に生きているように感じられます。

しかし、無邪気に無自性だった赤ちゃんも「幼子もしいだいに智慧づきて仏に遠くなるぞ悲しき」という古歌があるように、だんだんと自我・煩惱が邪魔をし、気づいたときには父母、先祖から脈々と流れる縁起の中にあつて、無自性であつたことを忘れていきます。

眼に映る、光と影から新しい世界を感じとり、耳から聞こえる母の声や好ましい音楽、様々な音を一身に聞き分け、鼻で嗅ぐ母乳のにおい、舌に伝わる母乳の味、皮膚から伝わる肌のふれあいを感じとる。その五感によって起こる心の意識。生を受けて後、赤ちゃんは六根・六識を無心、無自性に生きているのです。

般若心経の中では、色なく、

受・想・行・識もなく、

眼・耳・鼻・舌・身・意もなく

色・声・香・味・触・法もなし。

眼界もなく、

および意識界もなし。

と説いています。そのままを体現しているといえます。

それは「自性無きが故に命を空じている」といえます。

さて、本日は般若心経の「是故空中」（是の故に空の中には）をテーマにしています。

先にお話ししました災害・震災の話や、赤ちゃんの無自性に縁起の中に生きる姿、どちらも時間的にも空間的にも、大いなる「縁起」という複雑な網の目の中で起こったことであり、私という存在も実は網の目の一部であります。

仏教では「縁起せるが故に空である」と説きます。般若心経の「是故空中」とは「大いなる網の目を生きるわたくし」と言えるのではないのでしょうか。

明玄合掌

臨済宗青年僧の会主催

少年少女研修会「寺子屋」

於・安住寺

七月二十七日、安住寺檀信徒のご家庭の子供を中心に、四十三名の子供たちが参加し「寺子屋」が開催されました。坐禅や法話、行燈作りなどを体験し、元気に一日をお寺で過ごしました。

参加者の感想文一部を紹介させていただきます。

「寺子屋で楽しかったこと」

小学三年 上園叶永
私が、今日の寺子屋で楽しかったことは、ざげんです。ざげんはつかれた時もあったけど、がんばってすると、さいごまでできたので楽しかったです。私は二回ぐらいたたかれてみたかったです。どうろうを作ったのも楽しかったです。

終わりのほうで、絵を描きました。ハートや星や人やひらがなを書きました。ひらがなは「がんばろう日本」と書きしました。とても楽しかったです。



休み時間に、友達とあそびました。三月十一日にあった東日本だいしんさいの本を見たりしました。とても海はこわいなあと思いました。

和尚さんの、かみしばいも見ました。ちいさな本を大きなかみしばいに作りにえて読んでくれました。昔のことを書いたかみしばいも読んでくれました。ふつうのかみしばいも読んでくれました。とてもおもしろかったです。

昼ごはんは、カレーを食べました。とてもおいしかったです。また来たらいろんなことをして、あそんだり、ざげんをくんだりしたいです。今日はとても楽しかったです。

「少年少女研修会」

小学五年 工藤千紘

七月二十七日、安住寺に研修会に行きました。沢山のことを学びました。

一つ目は、坐禅です。座布団の上で、正座をして自分の精神をみがくことをしました。

初めは三分、二回目は十分でした。二回目は、棒みたいなのやつで、しれいが悪かったり、いねむりしたり、声が出たらたたきまうと言われました。私は坐禅をして、とても足が痛くなりました。

二つ目は、国東から来た和尚さんの話のことです。主に「ありがとう」の意味と、いつ「ありがとう」をつかうか教えてくださいました。

この短い間だったけど、沢山のことを学びました。楽しかったです。



「楽しかった寺子屋」

小学五年 須賀希歩

今日楽しかったことは、二つあります。一つ目は、坐禅です。私は今日初めて坐禅をしました。初めに、手の組み方や足の組み方を教えてもらいました。初めは、三分間でした。三分間する前、とても緊張しました。一回目がスタートしました。している時、三分間以上しているような感じがしました。少し休憩しました。次に、十分間しました。十分間は、とても長く感じました。



二つ目は、灯ろう作成です。灯ろう作成も、初めてでしたが、途中まで作ってくれていたのが、ホッチキスで止めるだけだったので、思ったより早く作り終わったのでよかったです。骨組みが出来た後、両面テープで、紙をはって絵の具で絵を描いて、終わりました。

初めて来た寺子屋だったけど、とても楽しかったです。また来てみたいです。

